

## ナショナリズムとエゴイズム

2680 地区 PGD 田中毅

世界食糧機構の発表によると、今年最大規模の食糧危機に遭遇するはずの北朝鮮は、全ての資金をミサイル開発と核実験に充てて、核搭載の ICBM の完成に命を懸けています。中国は西沙諸島や南沙諸島の岩礁を埋め立てて、軍事施設や滑走路を造って、自国の領土だと主張しています。ロシアがどさくさにまぎれて占領している北方四島、隙あらば奪取しようと中国が狙っている魚釣島、みごとに盗まれてしまった竹島。そして最近世界中で活発な活動を続けるイスラム国。

19 世紀から 20 世紀には列強の植民地だったこれらの国々が、遅ればせながらナショナリズムに目覚めて争いを起こしています。

その一方で大国のエゴイズムにも激しいものがあります。アメリカは貿易不均衡を理由に突然 TPP を離脱し自国の貿易収支の改善を最優先して、America First ならぬ、Trump First を主張し、自分の気に入らない側近やメディアを次々と遠ざけました。イギリスはもうこれ以上難民を受け入れがたいとして、EU を離脱しました。もっとも日本は難民を殆ど受け入れていないので評価の対象すらなりません。EU 加盟諸国は、国別の経済格差が大きすぎて、離脱をせざるを得ない国が続出し、欧州統一通貨も自由貿易も危機に瀕しています。

さらにオイル・マネーや世界中の富裕層や金融機関から集めた大量の資金でファンドを組み、コンピューターを駆使した先物取引で巨大な利益を得る新資本主義を名乗る多国籍企業が横行しています。

そうです。現在の国際社会は、ナショナリズムとエゴイズムの台頭によって世界の平和と経済は危機に瀕しているのです。

シェルドンがロータリーの中で最も輝いていた時期に、Sheldonism が誰でも理解できるように、シェルドン・スクールの卒業生たちが皆で作ったのが「ロータリー道徳律」です。道徳律の第 11 条には「最後に、he profits most who serves best という黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。」と記載され、100 年先を見越したように、ナショナリズムやエゴイズムを厳しく諫めています。

Sheldonism に従った取引は奉仕が目的であり、利潤を目的とした取引は虚業であることを忘れてはならないのです。

地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人人は他人のことを思いやり、残り少ない資源を皆で分かち合わなければならないことに気づくでしょう。僅かな物資を分け合って人人は助け合って生きていかなければなりません。この分かち合いの社会のことを、フランスの経済学者、ジャック・アタリは超民主主義と呼んでいます。

超民主主義は利他主義であり、これまで個人の利益・幸福を追求したことに対する反省をこめて、人々が他人のために働くことによって自分の利益を得るという心の発展と開放を目指すことを意味します。

超民主主義とは、市場原理主義の限界を超えた、人の善意で世界が運営される、国境すらない世界平和主義という理想モデルの一つなのです。そしてロータリーは超民主主義を目指して 100 年有余の活動を続けてきたはずです。